



回復期 病院紹介

回復期 病院紹介

No.53

社会医療法人 三車会

貴志川リハビリテーション病院

(和歌山県紀の川市)

24時間救急医療体制、急性期から在宅までの 一貫したリハ医療・介護で地域に貢献

医聖 華岡青洲 生誕の地に立地

当院は、世界で初めて全身麻酔による乳がんの摘出手術に成功した医聖 華岡青洲の生誕地である和歌山県紀の川市に立地しています（写真1）。当院のある那賀医療圏は、豊かな自然とおいしい果物の産地に囲まれた紀の川市と、関西空港ほど近い大阪府のベッドタウンの岩出市からなり、圏域の人口は11万7千人、高齢化の波は全国推移と同傾向となっています。

病院は1998年、殿尾整形外科診療所（無床）から始まり、2008年、貴志川紀和病院（168床）となりました。2012年に療養病床48床をリハ病床に変更し、2013年4月に貴志川リハビリテーション病院になりました。2014年に社会医療法人の認定を受け、2015年、県の地域リハ広域支



写真1 貴志川リハビリテーション病院外観

援センターに指定され、法人の基幹病院としての役割を果たしています。

法人の掲げる基本理念は、患者様の安心、職員の喜び、地域への貢献を図り、良質な医療・介護サービスの実践を通じ常に努力をすることです（表1）。地域に安心を届けるため、整形外科を中心に24時間の救急医療体制とリハ医療の機能充実を図り、地域包括ケアシステムの中でのリハ部門の拠点づくりを展開しています。

医療拠点として2015年、在宅療養支援診療所

病院の概要

(2018年12月現在)

病棟構成とベッド数：総病床数168床
うち急性期一般病棟（入院料5～34床）、地域包括ケア病棟（入院医療料2～26床）、回復期リハ病棟（入院料1～48床）、医療療養病棟（入院料2～60床）
リハ施設基準：脳血管疾患等リハ料（I）、運動器リハ料（I）、呼吸器リハ料（I）
標榜科目：整形外科、脳神経外科、リハ科、救急科、外科、内科、呼吸器内科、循環器内科、麻酔科、放射線科
職員数：常勤医師13名（非常勤30名）、看護師82名、看護補助者26名、理学療法士54名、作業療法士16名、言語聴覚士5名、社会福祉士3名、薬剤師6名、臨床検査技師3名、診療放射線技師7名、管理栄養士4名
併設施設：訪問リハビリテーション室
関連施設：在宅総合ケアセンター赤ひげクリニック（在宅療養支援診療所、通所リハ、訪問リハ、訪問看護、居宅介護支援）たま整形外科（診療所、通所リハ、訪問リハ）、介護施設Activa（短期入所生活介護、通所介護）
ホームページ：[社会医療法人三車会 貴志川リハビリテーション病院](http://www.mikurumakai.or.jp/)

表1 法人の基本理念（社会医療法人 三車会）

良質な医療・介護の実践を通して、常に努力します。

- ① 患者様の安心：患者様・利用者様へ、より安心と喜びを
- ② 職員の喜び：職員が、生き生きと働ける職場を
- ③ 地域への貢献：地域住民へ、より貢献を

三つの車（患者様の安心・職員の喜び・地域への貢献）で支えあい、『医療・介護サービス』を力強く前進させていきます。





回復期 病院紹介



写真2 「赤ひげクリニック」(紀の川市)は、訪問診療・ケアプラン・訪問看護・訪問リハ・通所リハを行う地域の在宅総合ケアセンター



写真3 「たま整形外科」(紀の川市)は連携医院として医療の幅を広げる役目を担っています。介護サービスとして短時間通所リハと訪問リハも行っています

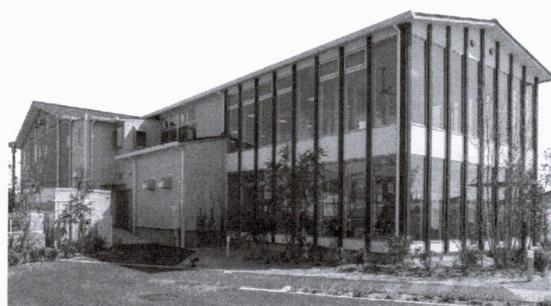


写真4 ショートステイ・デイサービスのリハ機能に特化した介護施設 Acti-va

「在宅総合ケアセンター 赤ひげクリニック」(写真2)、2018年、整形外科とリハに特化した「たま整形外科」(写真3)を開院。介護拠点として2017年、リハに特化したショートステイとデイサービスを行う介護施設「Acti-va(アクティーバ)」を開設しました(写真4)。



写真5 明るい光が差し込む入院患者様用リハ室



写真6 外来患者様用リハ室

これら関連施設は電子カルテで結ばれ、情報の共有化が図られています。

充実したリハ室とりハ提供体制

当院は日本リハビリテーション医学会研修施設の認定施設であり、院長(整形外科)、副院長(脳神経外科)が指導医の資格をもち、非常勤を含め4名の指導医が在籍しています。リハ科外来では、脳卒中後遺症による痙攣に対しボトックス治療も実施しています。また、月に1~2回、リハ室で田島文博・和歌山県立医科大学リハ科教授の診察があり、直接指導をいただいている。

リハ室は入院患者様用(写真5)と外来患者様用(写真6)の2室、計約800m²を備えています。特に2015年に増築された入院専用リハ室は、PT、OT、STの3部門がワンフロアに設置され、患者様を中心に専門職間の情報共有が効率的に行える





回復期 病院紹介



左から、写真7 在宅の環境に合わせた設定が可能なトイレ／写真8 入浴シミュレーター／写真9 訪問リハのかかわり（自宅での入浴練習）

設計です。その中でも左右どちらからもアプローチができ、手すりの位置を任意に変更できるトイレ（写真7）、入浴シミュレーター（写真8）、和室、調理実習室など、個々の在宅生活を再現できる環境下で評価と訓練ができるよう配慮されています。病院にはPT54名、OT16名、ST5名（うち訪問リハ室担当PT6名、同OT2名）が配属されています。

また、在宅復帰に向けた医療・看護・介護・福祉の総合的な支援を行う窓口である「PFM室」（ペーシェント・フロー・マネジメント室）を設置しています。入院前から患者様が安心して医療・看護が受けられるようかかりわり、自宅等への退院後も安全で安心して生活が送れる環境づくりに努めています（表2 当院回リハ病棟の実績）。

当院回リハ病棟での取り組み

●回リハ病棟セラピストが訪問リハを継続

「リハの質の充実」と「若手セラピストの教育」という2つの目的から、当院では回リハ病棟48床に対しPT16名、OT8名、ST3名、総勢27名のセラピストを配置しています。

回リハ病棟退院後の在宅生活へのかかりわりについて現状は、「介護保険のリハ開始までに14日以

表2 当院回リハ病棟の実績（2018年4月～9月）

- 入院患者数：94名 ● 退院患者数：123名
- 病床稼働率：89.8 % ● 平均年齢：75.4歳
- 疾患別患者割合：脳血管障害51.8 %、運動器47.0 %、廃用1.2 %
- 発症から入院までの平均日数：25.8日
- 重症患者割合：41.7 %
- 重症患者B項目4点以上の改善者割合：58.3 %
- 個別リハ提供単位数（1人1日）：7.37単位
- 在宅復帰率：97.4 %
- 実績指標：44.1

上かかるケースが2割弱ある」（中医協）と課題視されており、切れ目ない支援体制づくりが不可欠です。リハ部内にある訪問部門が入院部門と密な連携をとっていますが、障害を残した患者様が回リハ病棟を退院し在宅で生活の再構築に取り組む際、できれば各患者様を入院中直接担当したセラピストが信頼関係をベースにかかりわり、次の生活期へつなげていく体制が望ましいと考えてきました。

そこで、恵まれたスタッフ体制の強みを活かして、2017年10月から、必要な方に対し入院中に担当したセラピストが退院後も継続して訪問リハにかかりわれる体制をとっています。訪問リハは経験4年目以上のPT・OT・STが担当し、最長で3か月間かかりわっています。取り組みを開